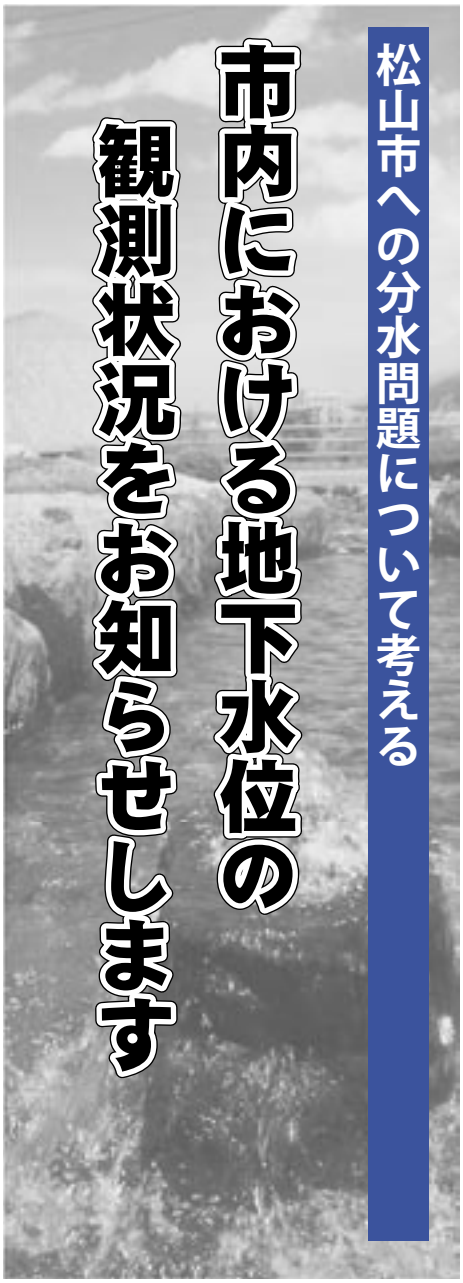


松山市への分水問題について考える

市内における地下水位の観測状況をお知らせします

市の「水資源対策調査研究会」では、市内における今後の水需要について調査・研究を進めるとともに、松山市への分水問題について、市民の皆さんのご意見等を募集しています。

今回は、市内における地下水位などの観測状況についてお知らせします。

市では、市内34カ所の地下水観測井戸で水位や自噴量の観測を実施し、地下水の状況把握に努めています。

地下水は、天候や自然環境に対して敏感に反応し、特に渇水時においては、地下水位が低下し、地下水の自噴量も減少します。

下記のグラフは旧西条市で観測した1979（昭和54）年以降における地下水位の変動を表したもので、グラフを見ると、1994（平成6）年、1998（平成10）年、2005（平成17）年の大渇水時には、各観測地点ともに地下水位が低下していることが分かります。

地下水位が低下すれば「うちぬき」が止まり、自噴地帯の減少や臨海部での塩水化などが生じ、市民生活や産業活動に重大な影響を及ぼすことになります。

現在、市では湧き水・自噴井の保全と活用を検討するため、皆さんの身近にある湧き水・自噴井の情報を募集しています。湧き水などの状況、情報提供者の住所、氏名、連絡先を水資源対策調査研究会へお知らせください。

なお、市庁舎別館の環境課窓口では、神拝小学校の観測井戸で調査した地下水位の変動状況を日平均で1カ月ごとに取りまとめ、市民の皆さんに公開しています。

▲市内34カ所にある地下水観測井戸
（写真は玉津小学校の観測井戸）

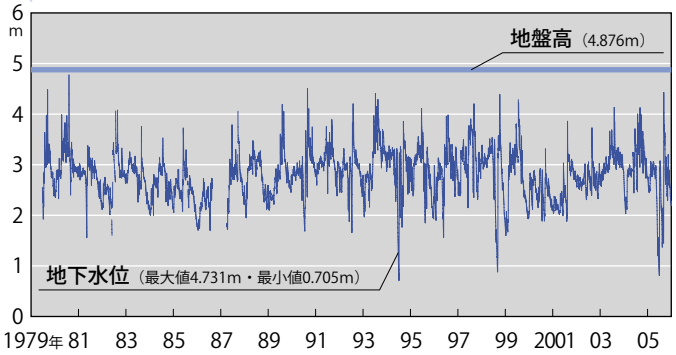
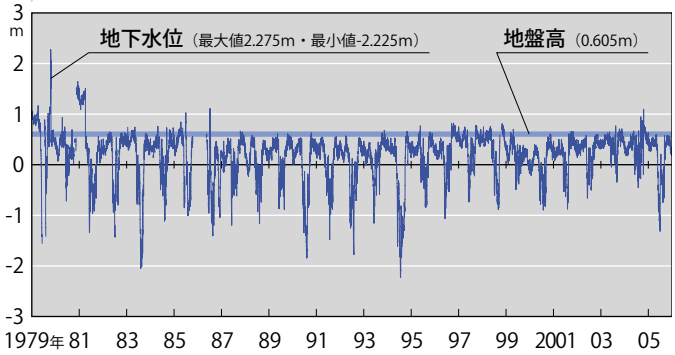
松山市への分水問題についてのご意見等や、湧き水・自噴井に関する情報をお寄せください

水資源対策調査研究会（市庁舎別館１階環境課内）　TEL0897－52－1221
〒793－8601　明屋敷164　FAX0897－52－1294　e-mail kankyo@saijo-city.jp

1979年から2005年まで、市内６カ所で観測した地下水位の変動状況をお知らせします。

※グラフは、1979（昭和54）年１月１日から2005（平成17年）12月31日まで、１日ごとに観測したデータ（観測地点によっては未観測日を含む）を表示しています。数値は標高表示です。

大町小学校の地下水位・地盤高　位置図No.⑦



市塚の地下水位・地盤高　位置図No.③